海水　海は、なぜしょっぱい

「海と川が、ちょうど出会うところで話しています。少しのぞいてみましょう。

海「川くん、話があるんや。わし、しょっぱいんや」

川「お前のせいや」

海「知っています。みんな言っています。でも、ぼくのせいではありません。ぼくの水はしょっぱくありません」

川「ほな聞くけど、わしの水はどこから来とる」

海「……ぼくからです。でも、ぼくの水のもとは空から降った雨です」

川「その雨は、山の岩の上を流れて川へ下りてくるやろ。岩には、ほんのわずかやけど塩のもとが入っとる。雨はそれを溶かしながら川へ下りてくるんや」

海「そんな味、しませんよ」

川「せや。味がせんくらい少ないんよ。コップ一杯飲んでも、だれも気づかん量や」

海「では、どうして海だけしょっぱいのですか」

川「わしから出ていくのが、水だけなんや。太陽にあたためられて、水は蒸発して雲になる。けど、塩は蒸発せん。海に置いていかれるんや」

海「雲は雨になって、また山に降りますね。……少しずつでも、塩が残り続けたら……」

川「たまる。水はぐるぐる回っとるけど、塩だけは回らん。……それをどれくらい続けたと思う」

海「百年くらいですか」

川「四十億年や」

海「……ぼく、きのうの雨で生まれたんですけど」

川「今のわしは、水一リットルに塩が三十五グラム。みそ汁の三倍のこさや」

海「これから、もっとしょっぱくなるのですか」

川「それがな、ならんのや。入ってくる塩と、出ていく塩がつり合っとる。海の底にしずんで、岩になっていく分もあるんや」

海「では、ずっとこのままなのですね」

川「せや。お前がまじめに運んでくれても、わしはこれ以上しょっぱくならん」

海「よかったです」

川「よかったことあるか。ずっとしょっぱいままや」

海の塩のもとは、地球ができたばかりのころの空にありました。火山のガスが雨に溶けこみ、酸性の雨となって降り、岩のナトリウムを溶かして海へ運んだのです。

水は、海と空と川をぐるぐる回り続けています。けれども塩は回りません。今は入る量と出る量がつり合っているので、濃さは変わりません。海がしょっぱいのは、水だけが出ていったからなのです。



選択

コップに砂糖水を入れて、日なたに置いておきました。水が半分になったとき、あまさはどうなりますか？海の説明と同じ考え方を選んで○をつけましょう。

①水がへった分だけ、あまさもうすくなる

②水だけが出ていくので、残った水はもっとあまくなる

③砂糖も水といっしょに出ていくので、あまさは変わらない

記述

あとの10個から言葉をえらんで（　）に入れ、文章全体をまとめましょう。

海の水がしょっぱいのは、（　①　）が山の岩から塩のもとを少しずつ溶かし、海へ運んでくるからです。運ばれる量はとても少ないので、川の水には塩の（　②　）がありません。ところが、海から出ていくのは（　③　）だけです。塩は（　④　）しないので、海に残り続けます。それが四十億年続いたため、海の塩はたまっていきました。ただし今は、入ってくる量と出ていく量が（　⑤　）いるので、海はこれ以上（　⑥　）なりません。

蒸発　川　うすく　味　こおり　しょっぱく　海
つり合って　雨　水

①	③	⑤
②	④	⑥

漢字

漢字に直して書きましょう。

⑴しげん

⑵まざる

⑶ふえる

⑷えいきゅう

© ドリパパの国語テスト　doripapadrill.com

こたえ

海水

選択

②

②が正かい（出ていくのは水だけで、とけているものは残る）

記述

①川　②味　③水　④蒸発　⑤つり合って　⑥しょっぱく

漢字

⑴資源　⑵混ざる　⑶増える　⑷永久

© ドリパパの国語テスト　doripapadrill.com